

鹿児島の昆虫51

鹿児島のレッドリストの昆虫たち

昆虫担当 金井 賢一

2014年に改訂された鹿児島県レッドリストでは、絶滅4種、絶滅危惧Ⅰ類38種、絶滅危惧Ⅱ類55種、準絶滅危惧74種、消滅のおそれのある地域個体群が13地域挙げられています。2016年3月に発行予定のレッドデータブック改訂版では、さらに整理されたものが発表される予定です。

昆虫はそれぞれの環境に適応し、本能に記された生活様式を守って生活しています。親などに教わらなくても、環境に適応した複雑な行動ができるのは、この本能のおかげです。しかし、あらかじめ本能に記された行動は、たとえ環境が変化しても柔軟に変化させることができません。したがって、環境の変化により多くの昆虫が絶滅の危機に陥る状況が続いています。

スギタニアオケンモンという蛾の一種は、幼虫がオオマルバノテンニンソウというシソ科の植物を食べてい



スギタニアオケンモン

ます。県内では紫尾山で多数見られ、霧島でも記録のある蛾です。2000年頃までは紫尾山で灯火採集をすると多数やってきましたが、現在ではほとんどいません。紫尾山では現在シカが林床の植物を食べ尽くす勢いで増えており、オオマルバノテンニンソウが消滅の危機に瀕して



ヤマキマダラヒカゲ

いるからです。スギタニアオケンモンの他に、ササ類を幼虫が食べるヤマキマダラヒカゲも、同じく紫尾山山頂付近では消滅の危機にあります。

ハンミョウという甲虫の中には、砂浜の環境を好むものがあります。幼虫は砂に穴を掘り、通りがかった昆虫などを捕まえて食べます。1960年には谷山の光山でルイスハンミョウ、シロヘリハンミョウなども記録されていましたが、現在錦江湾ではほとんど見られなくなりました。これは高度成長期に錦江湾の海岸線が急速に防波堤の工事や埋め立てにより、

なくなってしまうからです。成虫がエサをとる波打ち際の環境が残っていたとしても、背の高い防波堤がすぐ後ろにあると、幼虫が巣穴を掘る場所や台風時に成虫が避難する場所もなく、海浜性ハンミョウは姿を消します。



砂浜の狭い内之浦の海岸



イカリモンハンミョウの

見られた柏原海岸



郡田川（2011年工事後）



ツルヨシの回復した郡田川（2015年）

霧島市国分を流れる郡田川は、県内でも有数のアオハダトンボの生息地でした。2010年春には一目20頭、流域には推定2,000頭はいるだろうという環境でした。しかし2010年秋、台風による護岸損傷のために工事が入りました。その際に水辺に生えていたツルヨシまでも排除されたため、2011年に川の中を1km歩いた際に見ら

れたアオハダトンボは13頭にとどまりました。2015年、同じように川の中を1km歩いたところ、26頭が確認できました。ツルヨシ群落も回復してきており、このままアオハダトンボが再びたくさん飛び交う場所になって欲しいと思います。

絶滅危惧種を守ろうというとき、「増やして放せば良い」と考えている方も多しいと思います。しかし絶滅危惧種は保全の旗振り役であり、大切に守らなければならないのは、絶滅危惧種を含む彼らの生活する環境そのものであることを、常に忘れてはなりません。



アオハダトンボ（メス）